



## 第4回

**NPO法人口から食べる幸せを守る会**

**全国大会 in 横浜**

**—多職種で繋ごう“食の憩い”—**

**プログラム・抄録集**

**会期 2016年7月2日(土)**

**会場 横浜市教育会館**

**主催 NPO法人口から食べる幸せを守る会<sup>®</sup>**



# 目次

ご挨拶	P2
プログラム	P3
参加者の皆様へ	P4
座長・演者の皆様へ	P5
会場案内図	P6
展示配置図	P7
基調講演	P8
教育講演	P10
一般口演	P13
特別講演	P16
シンポジウム	P18
共催・企業出展一覧・今後の研修会情報・出版物ご紹介	P23

## ご挨拶



第4回NPO法人から食べる幸せを守る会  
全国大会 大会長 小山 珠美

平素から当NPO法人の活動におきまして、多大なるご理解とご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

このたび、第4回KTSM全国大会を本日7月2日に横浜教育会館で開催させていただくことになりました。今回のスローガンは“多職種で繋ごう食の憩い”としました。人間にとって口から食べることは、生命の根幹であり、生きる権利です。ようやく、食べることへの支援が多職種の仲間たちで広がりを見せています。また、口から食べることの重要性やその根拠について書籍、雑誌、研究報告などで多く紹介されるようになりました。当事者目線で食を支えるという風潮が高まってきたことは喜ばしいことです。とはいえ、まだまだ必要のない禁飲食に苛まれている方々が多く存在しています。世界一の長寿国となったわが国ですが、最期まで口から食べて幸せな時間を全うできる社会への変革が必要です。当大会にて、さらなる食べる支援の輪が広がっていくことを期待しています。

最後になりましたが、4月14日に発生した熊本地震で被害に見舞われた方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。今回の大会では、一部プログラムを変更して、熊本地震での支援活動の実際を紹介させていただきます。故郷熊本の一日も早い復興のためにも、皆様の前向きなご参加とエールを送っていただければと思います。

参加いただく皆様のご健勝とご多幸を心から祈念し、本大会が盛会となりますようご協力をよろしくお願い致します。

2016年7月2日

## プログラム

時間	ホール (4F)	第1会議室 (2F)	第1研修室 (3F)
9:40～10:00	受付開始		
10:00～10:10	オリエンテーション		
10:10～11:00	【基調講演】 食べたいをサポートする 包括的支援スキルの成果と普及 演者:小山 珠美/座長:前田 圭介	休憩 スペース (飲食可)	企業展示 (9:40 から)
11:10～12:10	【教育講演】 高齢社会・人口減少社会の地域医療に挑む！ 演者:古屋 聡/谷合 久憲/座長:竹市 美加		
12:10～13:20	昼 休 憩  DVD上映(12:25～13:15) NHKプロフェッショナル仕事の流儀 -食べる喜びを、あきらめない-	ランチョンセミナー (12:30～13:10)	一部スペースで食事介助相談 スプーンテクニック指導 (12:30～13:00)
13:20～14:15	【一般口演】 熊本地震支援活動関連 演者:前田 圭介/榎本 淳子 建山 幸/安部 幸/座長:社本 博	休憩 スペース (16:30 まで)	企業展示 (16:30 まで)
14:20～15:10	【特別講演】 誤嚥性肺炎に対する早期リハビリテーション 演者:百崎 良/座長:若林 秀隆		
15:10～15:30	休 憩		
15:30～17:30	【シンポジウム】 食を支える包括的支援チーム シンポジスト:安田 広樹/清山 美恵 寺本 千秋/中村 葉/当事者家族 座長:藤本 篤士/大石 朋子		
17:30～17:40	閉会挨拶・エンドロール		
18:00～18:30	懇親会準備	理事会(第2会議室)	
18:30～20:30	懇親会(同会場)		

## 参加者の皆様へ

### 1. 配布物について

・オレンジ色のコングレスバッグの中には、①抄録集②ネームホルダー(ネームカード入り)③ボールペン④各種案内が入っています。不足がございましたら受付にてお知らせください。ご着席しましたらネームカードにお名前をご記入いただき、必ずネームホルダーにいれてご着用ください。大会終了後は、受付ボックスにネームホルダーのみご返却をお願い致します。

### 2. 手荷物の管理およびクロークについて

・お手荷物は各自で管理頂き、大きな荷物はクローク(2F 第2会議室)にお預けください。会場内での紛失や盗難について本会では責任を負いかねますのでご了承ください。クローク受付時間は9:40～18:00までです。

### 3. ご昼食・ご休憩等について

・ホールは飲食禁止となっております。また館内での飲酒もできません。  
・昼休憩時間に1階受付で軽食(おにぎり・唐揚げなど)の販売を行います。(数に限りがありますのでご了承ください)  
・昼食・ご休憩をとる際は、2F第1会議室、または3F第1研修室をご利用くださいますようお願い致します。  
但し、12:30～13:10は2F第1会議室がランチョンセミナーの会場となりますのでご了承ください。

### 4. 会場の利用にあたって

・会場施設内は全て禁煙です。携帯電話・スマートフォンのご使用もお控えください。  
・災害発生時は、各会場で避難のアナウンスがありますので、指示に従ってください。

### 5. ランチョンセミナーについて(12:30～13:10)

・12:30～13:10の時間帯で2F第1会議室にてランチョンセミナーを行います。定員60名(先着順)  
一般受付が終了した方から、整理券を配布しますので、ご希望の方は所定の受付にお並びください。  
・テーマ:食べることは生きる喜び ～高齢者の摂食嚥下機能に合わせた美味しい食事の工夫～  
・講師:ワタミ(株)健康長寿科学栄養研究所 所長 麻植有希子

### 6. 会場内での写真撮影や録音について

・著作権とプライバシーの関係で禁止させていただきます。特にスライド画面の SNS などの投稿は行わないでください。なお、本大会本部で許可をした関係者や取材者は撮影を行います。ご理解・ご協力をお願い致します。

### 7. DVD上映について(12:25～13:15)

先般放送されました第294回NHKプロフェッショナル仕事の流儀 -食べる喜びを、あきらめない-をホールにて上映します。

### 8. 食事介助相談・スプーンテクニック指導(12:30～13:00)

食事介助方法の相談対応やスプーンテクニック指導を行います。希望者は上記時間に第1研修室にお集まりください。(人数に制約がありますのでご了承ください)

### 9. アンケートご回答のお願い

当ホームページからご回答いただけます。皆様ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。(回答期間:7月2日～16日まで)

## 演者・座長の皆様へ

### 座長の皆様へ

- (1) 受付は、該当セッションの開始 1 時間前までに行ってください。
- (2) 各セッションの進行は、座長に一任いたしますが、限られた時間内にて発表が円滑に進行するようご配慮ください。
- (3) 座長の方は担当セッションの開始 10 分前までに「次座長席」にご着席ください。

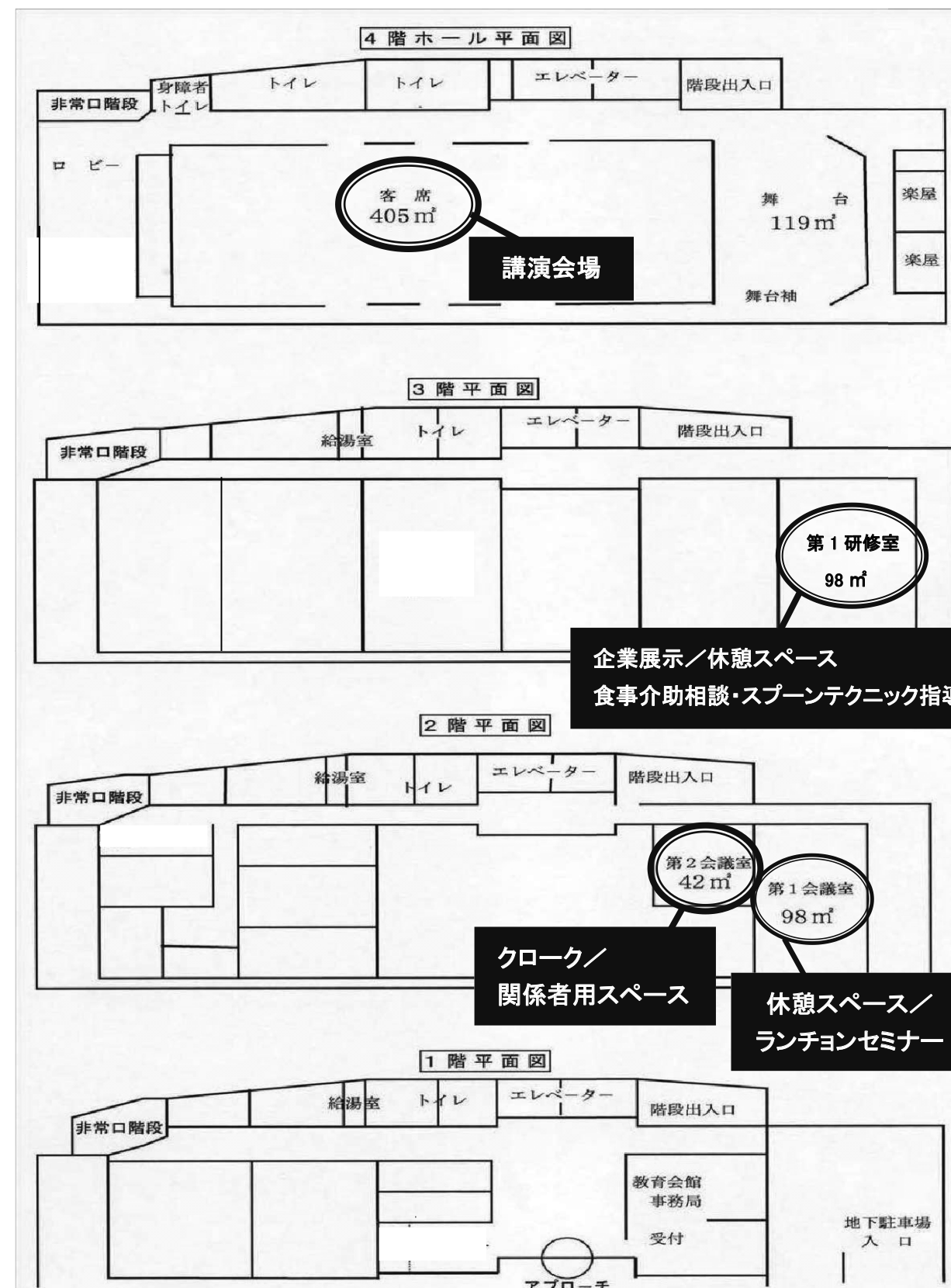
### 演者の皆様へ

- (1) 受付は、該当セッションの開始 1 時間前までに行ってください。
- (2) 発表用データ(USB 等)は「演者・座長受付」へ、担当セッションの 1 時間前までにご提出ください。トラブル回避のため、必ずバックアップメディアをご用意ください。
- (3) 発表にご自身の PC 本体を持ち込まれる方は以下を忘れずにご持参ください。
  - ・AC アダプター
  - ・外部出力用コネクタ
  - ・電源(AC)アダプター(バッテリー切れ防止のため)  
液晶プロジェクターとの接続は、D-sub15pin の外部出力端子です。  
専用のアダプターが必要な場合は、ご自身でご持参ください。
- (4) 音声や動画をご使用の場合は当日 10 時まで「演者・座長受付」にお知らせください。
- (5) 発表は、座長の指示に従い、時間厳守をお願い致します。
- (6) 演者の方は担当セッションの開始 10 分前までに「次演者席」にご着席ください。
- (7) 発表用データはいったん発表用パソコンに保存しますが、終了後に責任を持って消去いたします。

## 会場案内図

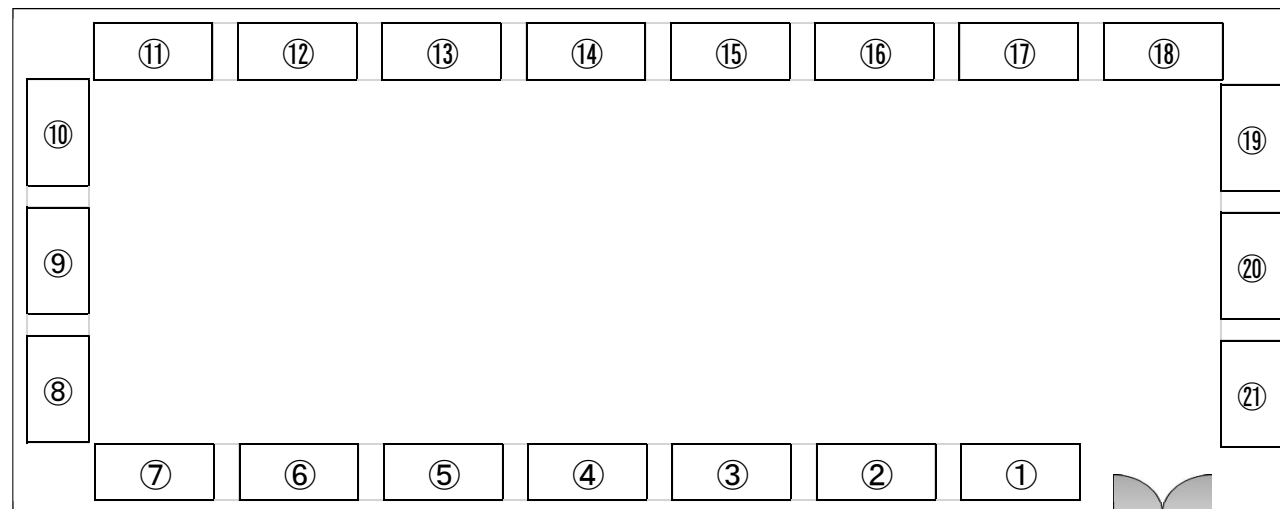
会場：横浜市教育会館（神奈川県横浜市 西区紅葉ヶ丘 5-3）

- アクセス：①JR の場合、桜木町駅から徒歩 10 分  
 ②市営地下鉄の場合、桜木町駅から徒歩 10 分  
 ③京急線の場合、日ノ出町駅から徒歩 10 分



## 展示配置図

### ■第1研修室(3F)



- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| ① ラックヘルスケア株式会社   | ⑪ 株式会社大塚製薬工場      |
| ② 日清オイリオグループ株式会社 | ⑫ 株式会社ヘルシーネットワーク  |
| ③ 株式会社クリニコ       | ⑬ 株式会社オーラルケア      |
| ④ 渡辺商事株式会社       | ⑭ ニプロ株式会社         |
| ⑤ ニュートリー株式会社     | ⑮ キッセイ薬品工業株式会社    |
| ⑥ 株式会社東京技研       | ⑯ キューピー株式会社       |
| ⑦ バランス株式会社       | ⑰ 伊那食品工業株式会社東京支店  |
| ⑧ 株式会社天柳         | ⑱ 株式会社トライフ        |
| ⑨ 株式会社フードケア      | ⑲ 株式会社タカキヘルスケアフーズ |
| ⑩ 株式会社明治         | ⑳ 株式会社ニシウラ        |
|                  | ㉑ ワタミ株式会社         |

(敬称は省略させていただきました)

## 基調講演

食べたいをサポートする包括的支援スキルの成果と普及

座長: 玉名地域保健医療センター摂食嚥下栄養療法科

医師 前田 圭介

演者: NPO 法人から食べる幸せを守る会 理事長

JA 神奈川県厚生連 伊勢原協同病院

看護師 小山 珠美

## “食べたい”をサポートする包括的支援スキルの成果と普及

NPO 法人から食べる幸せを守る会理事長／JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院  
看護師 小山 珠美

口から食べるためのサポートは、摂食嚥下機能に加えて、QOLを勘案した生活者としての包括的視点での評価と支援スキルが必要である。しかしながら、これまでの多くの成書では摂食嚥下機能や栄養などの一部の身体機能や、認知機能に偏っており、心身の包括的な側面での多職種連携による評価と支援スキルが融合したものはなかった。また、特定の専門職種のみがある一定の場面で評価・診断を下していることも多く、評価場面と生活場面での乖離が生じていることが多々ある。実際に食べることができるか否かは、一つの要因だけで決まるわけではない。にもかかわらず、嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査などの一側面で経口摂取は困難という評価が下されがちである。加えて、一旦口から食べることが困難と評価された人々が、再び口から食べるための支援体制やその技術力も脆弱なため、食べたい願いが叶わないままになっている要介護高齢者が多く存在している。人間は誰も完全ではない。身体の弱い部分があっても、他の側面がカバーし、支援者に不足を補ってもらうことで健康回復や心身の調和を図ることが可能となる。



以上の観点から、2015年に多職種で行う包括的支援スキルとして、生活者であるということの評価を観察とアセスメントできる“口から食べるバランスチャート(以下KTBC)”を開発した。食べることに困難を有した要介護高齢者は、自身では解決できない不足な面を有しており、多面的で系統だった支援スキルが必要である。そのためには、対象者の不足部分を補いながら、可能性や強みを引き出す包括的支援スキルとケアリングを提供できる人材が求められる。

また、本KTBCを用いた包括的視点は、介入前後の変化が可視化される。これらを当事者や家族も含めた多職種間で共有できることで医療施設のみでなく、福祉施設や在宅でのチームアプローチに活用できる。いくなれば当事者主権のために開発されたツールである。

本講演では、包括的支援スキルの意義とKTBCの信頼性における検証報告を含めて、多くの事例に適用できるツールであること、更なる普及への期待を述べさせていただく。

～略歴～

小山 珠美(こやま たまみ)

1978.4 神奈川県総合リハビリテーション事業団 神奈川リハビリテーション病院

1987.4 同事業団 厚木看護専門学校 看護第一学科 専任教員

1995.4 同事業団 七沢リハビリテーション病院脳血管センター 看護師長

2001.4 同事業団 神奈川リハビリテーション病院 看護師長

2005.4 愛知県看護協会 認定看護師教育課程「摂食・嚥下障害看護」主任教員

2006.4 社会医療法人社団 三思会 東名厚木病院

2014.4 JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院

2013.6 NPO 法人から食べる幸せを守る会理事長

2016年5月16日放送 第294回NHKプロフェッショナル仕事の流儀「食べる喜びを、あきらめない」出演

## 教育講演

高齢社会・人口減少社会の地域医療に挑む！

座長：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会 副理事長

ナチュラルスマイル西宮北口歯科

看護師 竹市 美加

演者：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会 副理事長

山梨市立牧丘病院 院長

医師 古屋 聡

演者：JA 秋田厚生連由利組合総合病院

医師 谷合 久憲

## 目の前の患者さんにベストを尽そう

山梨市立牧丘病院

医師 古屋聡



私は整形外科ベースの在宅医である。「摂食嚥下」に特別な興味はなかったが、2000年ごろ脳出血後の左片麻痺がある患者さんが、腹部大動脈瘤の手術をきっかけにご飯が食べられなくなって、胃ろうになって帰ってきた問題に直面した。さまざまな人に相談してうまくいかなかったが、最終的に山梨県在住の歯科衛生士の牛山京子さんのケアを受けるようになって、患者さんは再び口から食べられるようになった！その後、口腔ケアの旗振り役となった私は、2004年4月の歯科関係のシンポジウム「お口はベストコミュニケーション」で、小山珠美さんとはじめて出会った。そして2005年12月、私は神奈川県山梨県境に住むSさんという胃ろう患者の相談を受け、新宿の五島先生のMLでアドレスを知っていた小山さんに相談、多くの人の協力と本人家族の努力をもって、結果的にSさんは胃ろうを離脱することができた！これをきっかけに、山梨の私たちは神奈川県をはじめ多くの全国の摂食嚥下関係者と知り合い交流するようになった。

2011年東日本大震災で現地に赴いた私は、多くの「口腔ケア・摂食嚥下ニーズ」を目の当たりにした。牛山さん、小山さんはじめ、全国の仲間がたびたび気仙沼に来てくれた。そして現地のかたがたの素晴らしい努力とうまくシンクロして、気仙沼は当該領域の優れた実践を行う地域となって今にいたる。その経緯もすくなく影響を与えてKTSMが成立した。実践的スキル集団であるKTSMに「早期経口摂取」の力強いエビデンスが蓄積されようとしていて、2015年「KT バランスチャート」も世に提案された！

2016年3月、KTSMの重要地域である熊本県玉名市に、あるシンポジウムで訪れる機会があった。そして4月、熊本地震の発災！！東日本大震災での知見・経験と、KTSMの実践のなかで得られたことは、前田先生を中心に即座に熊本で実行された。それはこの後具体的に発表がある。

小山さんのNHKプロフェッショナルへの出演、雑誌「治療」の特集：多職種で取り組む摂食嚥下障害、成果は実践を経てこそ形にされる。全ては「目の前の患者さんにベストを尽そうと思った」ことにはじまるんだ。

～略歴～

古屋 聡(ふるや さとし)

1962年 山梨県生まれ

1987年 自治医科大学卒

1989年 牧丘町立(当時)牧丘病院 整形外科

1992年 塩山市立(当時)塩山診療所

2006年 山梨市立牧丘病院 整形外科

2008年 同院長

外来・入院・在宅診療を行っている。

山梨お口とコミュニケーションを考える会 代表

東日本大震災においては2011/3/16に現地入り、それ以来、月1-2回のペースで気仙沼をはじめ、南三陸・石巻を訪れ、気仙沼市立本吉病院の外来、仮設住宅・復興住宅への訪問、口腔ケア・摂食嚥下・コミュニケーションに関わるサポートを展開してきて、現在にいたる。

このたびの熊本大分地震においても、2016/4/18から複数回、現地に赴いて活動している。

## 高齢社会・人口減少社会の地域医療に挑む！

厚生連由利組合病院糖尿病代謝内科

医師 谷合 久憲



秋田県では、2年間で8回(由利本荘市5回、湯沢市2回、秋田市1回)の、小山珠美先生による摂食嚥下実技セミナーが開催されている。20年以上の歴史のある湯沢市の「秋田食介護研究会」と、設立2年の由利本荘市「NPO 法人由利本荘・にかほ市民が健康を守る会」が協力し、今年度もセミナーが予定されている。

のべ参加人数は281名で、主な職種は看護師81名(認定看護師7名)、介護職54名、管理栄養士36名、歯科衛生士24名、歯科医師15名、理学療法士11名、言語聴覚士(以下、ST)10名、介護専門員10名、医師7名、薬剤師5名となっている。特徴として医師7名以外に患者さんの家族4名、医学生2名が参加、看護学生も50名見学として参加している。

在宅専門職の少ない地域で現在、在宅医療を担うご家族と、次世代を担う若い専門職が同じ環境で学ぶことで、学生さんに介護の実際を学んで貰うことも意図している。また、ご家族に技術移転をすることで患者さんの在宅医療の継続の一助けとなっている。参加者は秋田県、山形県、宮城県を中心とした東北5県以外に北海道や神奈川、京都からも参加頂いている。参加病院としては秋田や青森の大学病院、秋田赤十字病院、厚生連3病院、秋田県立脳血管研究センター、青森や山形、宮城の県立病院、由利本荘・にかほ二次医療圏では基幹病院である厚生連の病院及び民間の3病院、医師会病院、国立病院機構とすべての病院、ほとんどの介護施設を経営する法人と広く実技セミナー参加者が分布している。

しかし、二次医療圏で摂食嚥下の技術が浸透しているとは言い難く、学んだ技術をいかに実践するかは日本全体の問題点であると思われる。NPO 法人では秋田県在宅拠点事業を委託されたことをきっかけに、医療・介護・福祉に関する相談を市民から受けつけている。その中でボランティアのSTと一緒に在宅に介入したケースを紹介し、皆様とこの問題を一緒に考え、口から食べることを希望される方に一口でも食べて頂くことができるように、一緒に学びあう時間になりたい。

～経歴～

谷合 久憲(たにあい ひさのり)

東京都出身、慶應義塾大学工学部中退、日本医科大学卒業

千葉県がんセンターにて初期研修、岩手県立中央病院消化器科にて後期研修

萌気会浦佐診療所(在宅医療研修)、青嵐会本荘第一病院内科をへて

平成26年4月より厚生連由利組合病院糖尿病代謝内科

資格：日本糖尿病学会専門医 内科認定医、認知症ケア専門士 認知症サポート医 在宅サポート医、BLS、ACLS、JATEC、NSTコーディネーター、秋田県糖尿病療養士、口から食べる幸せを守る会実技認定

趣味：テニス(スグッチオープン予選敗退)、登山(遭難歴1回)、経済学、読書



## 一般口演

### 熊本震災支援活動関連

座長：南相馬市立総合病院

医師 社本 博

演者：玉名地域保健医療センター摂食嚥下栄養療法科

医師 前田 圭介

演者：玉名地域保健医療センター医療連携室

看護師・社会福祉士 榎本 淳子

演者：医療法人桜十字病院

看護師 建山 幸

演者：社会医療法人帰巖会 みえ病院

看護師 安部 幸

## 災害急性期の食べる支援

玉名地域保健医療センター摂食嚥下栄養療法科 医師 前田 圭介

災害急性期には高齢者へ十分な食べる支援が行われない可能性が高い。公的団体の介入が定着し始めるまでの間に「空白期間」が起こりえる。熊本地震ではこの空白期間に早期介入することができた。

1) 超早期リサーチ、2) 口腔ケア、栄養・水分補給、食事介助方法 活動量維持の啓発、3) 現場介入のための迅速な物資調達、4) フロアレベルで直接ケアを行う人員の確保と行動、4) 公的団体情報収集と関係づくり、6) その他折衝が大まかなノウハウである。1) 2) 3)には玉名地域保健医療センターの後方支援、2) 4)には KTSM の熟達したチーム力、4) 5)には牧丘市立病院古屋聡先生のご尽力、3)には SNS で繋がった全国の有志の力が大きく貢献した。関わった全ての方へ感謝申し上げたい。

## 熊本地震「必要な物を必要な人へ」災害急性期の後方支援

玉名地域保健医療センター医療連携室 看護師・社会福祉士 榎本 淳子

避難所の高齢者へ「食べる支援」を早期に着手する必要性を感じた私達は、本震翌日、かき集めた口腔ケア物資を持参し震源地であったとされる益城町に入った。すぐに、KTSM を通じた仲間からの物資提供の申し出があったが、発震直後から熊本県全域へ配送が停止したことを知った。様々な案を考え、隣県の大牟田郵便局(福岡県)に交渉した。その結果、郵便局留めの窓口で物資を応急的に受取り、私が 11 小口の初期物資を被災地に届ける事ができた。その後、当院を物資保管庫として設置し、必要な物資を必要な人へ届ける事が出来た。KTSM のネットワークが、早期の食支援サポートを可能にしたと確信している。甚大な被害を受けた地元熊本で、KTSM の仲間と一緒に物資提供、実務支援などの活動ができた事を誇りに思う。形容し難いほど心から感謝している。

## 要介護高齢者に対する避難所での食べる支援

医療法人桜十字病院 看護師 建山 幸

避難所には在宅介護を受けていた要介護高齢者が避難しており、様々な理由で配給された食事を全量摂取できなくなっていた。今回、発震急性期での直接支援活動で用いた KT バランスチャートは、誤嚥性肺炎などの二次的合併症が起こり得るチャートを示しており、早期に包括的な食支援が必要であることの実体性を抽出できた。その結果に即して、口腔ケア・ポジショニング指導・ダンボールベッドの導入・補助栄養食品や温かな粥の提供などの食支援を行い、嚥下能力の維持・二次的合併症予防に努めた。食べる事が困難になっていた要介護高齢者が、サポートチームの支援により、温かな笑顔に包まれたひとときを決して忘れない。



## 熊本地震で被災した要介護者に対して多職種連携で摂食サポートを行った経験

社会医療法人帰巖会 みえ病院 看護師 安部 幸

熊本地震の発震直後、古屋医師の SNS の呼びかけをうけて、初動のボランティアに参加することを決めた。それは、東北地震のときに誤嚥性肺炎で多くの方が亡くなったことに後悔があったからである。避難所では口腔ケア、摂食方法、栄養ケア、姿勢調整、活動援助などを多職種で行った。被災自治体が混乱する震災急性期は、ボランティア団体の医療従事者がニーズの高い要介護者を早期発見、介入し、適切な地域医療従事者に繋げることで、二次災害予防が可能になる。避難所生活で苦労されている要介護高齢者の奥様から「あなたたちに会えたことが、不幸中の幸せじゃ」との言葉をいただいたときは「口から食べる幸せ」に関わられて本当に良かったと思った瞬間だった。

## 熊本地震摂食サポートチームに参加して改めて学んだこと

南相馬市立総合病院 医師 社本 博

ある日突然起こる自然災害で高齢者が避難生活を余儀なくされる。避難所で、疾病予防や日常生活ケアを突然奪われる様は、まるで肺炎で入院し安静臥床・絶食を強いられたり、不適な食物形態での食事提供、不良姿勢、口腔不衛生で低栄養や二次性合併症を続発する医療現場と酷似する。災害時での食支援のキーワードは、初動、包括的介入、多職種連携、そしてその先を見据えたマネジメントである。そして、何より重要なのは現場でニーズを待つのではなく、自発的にニーズを発見し、対象者に適切な評価や介入ができる力を備えつつ発揮することである。災害時食支援は一人では難しいかもしれないが、チームを作れば実現可能だということを今回改めて学んだ。

・・・MEMO・・

## 特別講演

### 誤嚥性肺炎に対する早期リハビリテーション

座長: 横浜市立大学附属市民総合医療センター

医師 若林 秀隆

演者: 東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座

医師 百崎 良

## 誤嚥性肺炎に対する早期リハビリテーション

東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座

医師 百崎 良



誤嚥性肺炎による死亡者数が増加している。誤嚥性肺炎患者の多くは嚥下障害を有し、入院に伴い身体機能低下を中心とした入院関連機能障害と経口摂取能力の低下、栄養状態の悪化を容易に来しうる。これらは歩行能力、ADL の低下のみならず、認知機能の低下、合併症の増加、在院日数の増加、自宅復帰率の減少、死亡率の増加、QOL の低下を引き起こす。一度入院関連機能障害を発症すると、70%の患者はもとの生活機能レベルにまで回復しないとされており、予防的早期介入が重要である。

誤嚥性肺炎の治療は何も抗生剤の投与だけではない。近年、高齢誤嚥性肺炎に対する身体・呼吸・嚥下リハビリテーションと適切な栄養ケアの効果に関する報告が徐々に増えてきている。早期に嚥下リハビリテーションを受けた者は受けなかった者に比べ、早期に食事開始でき、短期間で経口摂取自立に達し、在宅復帰率は高く、在院日数は短く、死亡率は低い。絶食が嚥下機能の改善を妨げ、治療期間を延長させることも報告された。しかし、入院早期においてはとりあえずの安静管理や絶食管理がまだまだ横行している。日本における急性期リハビリテーションの供給量とその開始時期については全国的に改善の余地が残されている。

リハビリテーションの早期提供に際しては職種間の連携がブレイクスルーとなる場合が多い。リハビリテーション適応患者の抽出や、開始基準の標準化とその共有がリハビリテーション医療の質の向上に有効である。誤嚥性肺炎患者に対する入院関連機能障害予防対策を標準化する試みも行われている。現状、誤嚥性肺炎に対する薬物療法以外の介入効果に関する知見はまだ不足しており、誤嚥性肺炎に対する新たなエビデンス創造のために、多施設共同症例登録データベースの整備も進められている。本邦から、誤嚥性肺炎診療を変えうる重要な臨床的知見が数多く報告されるのを期待している。

～略歴～

百崎 良(ももさき りょう)

平成 16 年 東京慈恵会医科大学卒業後、同大学附属第三病院にて初期臨床研修

都立大塚病院リハビリテーション科等を経て

平成 22 年 リハビリテーション医学会専門医取得

平成 24 年 東京慈恵会医科大学にて医学博士取得

平成 25 年 東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻入学

平成 27 年 東京大学にて公衆衛生学専門職学位取得

現在 東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座講師

同大学附属第三病院リハビリテーション科診療医長

## シンポジウム

## 食を支える包括的支援チーム

座長:医療法人 溪仁会 札幌西円山病院

歯科医師 藤本 篤士

座長:筑波大学大学院人間総合科学研究科

看護師 大石 朋子

シンポジスト:医療法人桜十字病院

医師 安田 広樹

シンポジスト:フリーランス

歯科医師 清山 美恵

シンポジスト:紀州リハビリケア訪問看護ステーション

作業療法士 寺本 千秋

シンポジスト:JA 神奈川県厚生連 介護老人保健施設 ほほえみの丘

管理栄養士 中村 葉

シンポジスト:当事者ご家族

## 食を支える包括的支援チーム

## ～熊本地震を体験して～

桜十字病院 内科  
医師 安田 広樹



当院では、「口から食べるプロジェクト」を、病院全体で取り組むテーマとして活動している。医師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士、薬剤師、リハビリスタッフなど、多職種でコアメンバーを構成し、スタッフへの指導や患者回診などを行っている。また最近では周辺の医療機関などから、「口から食べる」を目的とした紹介をいただくようになってきている。

そんな中、熊本では4月14日と16日に、2回にわたって最大震度7の大地震が発生した。当院は熊本市の南部にあり、震源地の真上ではなかったが、それでも停電、器物損壊、建物のひび割れなどの被害を受けた。入院患者への直接の被害は殆どなかったが、ケア不足による口腔内汚染が目立つようになった。被災地に入られた小山先生達からの示唆を受け、KT バランスチャートで評価を行ったところ、避難所と同様に口腔内環境の悪化と活動性の低下を認め、肺炎や全身状態悪化を来しやすい状態となっていた。

これに対し、以下のような対策を行った。①歯科衛生士が中心となりスタッフへの口腔ケア指導と専門的な口腔ケア、②リハビリスタッフによる離床や集団での体操指導で活動性低下の予防、③地震による精神的なストレスを考慮した保健師によるストレスケア。これらは看護部の強力な支援のもとに、病院全体で対策を実施することが出来た。

その結果、定量的な評価は出来ないが、地震から1か月経った現在、肺炎発症が増加した印象はなく、入院患者を守ることは出来たと考えている。

こういった対応が迅速に行えたのは、「口から食べるプロジェクト」を通じた他職種連携の素地が培われていたこと、口から食べることや口腔ケアの重要性が伝えられていたことが、大きな要因であったと考える。しかし、地震という大災害を通じて、改善すべき課題も見えてきた。今回のシンポジウムを通じて、今回の経験を報告するとともに、課題について検討したいと思う。

## ～略歴～

安田 広樹(やすだ ひろき)

平成9年:愛媛大学医学部卒業

以後、九州大学病院、国立病院機構福岡病院などで

内科、呼吸器科を中心に診療

平成19年:桜十字病院に入職

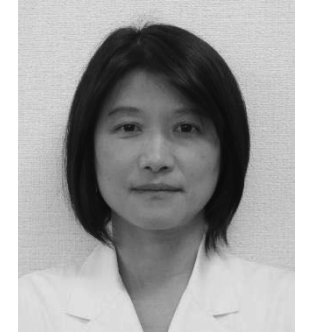
平成20年:呼吸器センター開設

平成24年:「口から食べるプロジェクト」開始

## 食を支える包括的支援チーム

## ～宮崎における食を支える多職種支援の関わり方～

フリーランス  
歯科医師 清山 美恵



摂食嚥下リハビリテーションは、「チームアプローチ」と言われていますが、多職種での介入はなかなかスムーズにいかないのが現状です。

経口摂取継続に頑張っており取り組んでいたのに、他の原因で体調を崩し入院した結果、胃瘻で退院、その後のフォローはない…、経鼻経管チューブをつけたまま退院、その後のフォローはない…、食べさせたいけど食べさせていいのかわからないなどと言われる経験は少なくありません。地方である宮崎の環境を考慮すると、新しい情報が入りにくい、マンパワーに乏しい、患者さんに関わる人たちが効果的な介助方法を直接学べる場、機会が少ないなどの多くの問題点があるからだと思います。

待っていても指導依頼は来ない。しかし、どのように情報を得るか、患者さんの医療関係者といかに接するか、いかに患者さんに向き合うか、どのようにお願いするか、お願いする方もお願いされる方もまだまだ把握できていない状況です。

では、地方である宮崎ではどうすべきなのか？

そこで、往診業務での摂食嚥下評価および指導、訓練はもちろん、県・市障害者入通所施設での摂食嚥下機能評価、多職種の集う団体(宮崎キュアケアネットワーク)イベントへの参加、デイサービスでの摂食嚥下および口腔ケア指導、障害者通所施設での口腔ケア、介護予防通所施設での口腔リハビリテーションの指導などに、歯科医師として積極的に関わることにしました。

また、昨年はKTSMのお力をお借りし、実技セミナーを開催することができました。宮崎では初めての企画でなかなか大変でしたが、机上学習では得られない「手を動かす」ことが、臨床の場に戻った時に少しでも活かされると確信していました。患者さんに少しでも口から、より安全に、より楽しく食事してもらおう、結果として、「健幸」になれることを広めたいと思っています。

宮崎でこれまでにない取り組み、現在の活動などについてお話したいと思います。

## ～略歴～

清山 美恵(きよやま みえ)

2005年 九州大学歯学部卒業

2005年 九州大学歯学部顎口腔外科入局

2008年 宮崎歯科福祉センター勤務

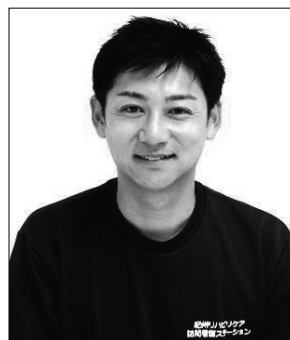
2011年 潤和リハビリテーション振興財団 潤和会記念病院

2016年4月 アート歯科マツダ(宮崎市)、けんなん病院(串間市)、他、非常勤勤務

## 食を支える包括的支援チーム

## ～地域で食を支えるために専門職ができること～

紀州リハビリケア訪問看護ステーション  
作業療法士 寺本 千秋



地域における摂食嚥下障害に対する具体的な取り組みとして、当訪問看護ステーションでの「嚥下往診」の機能と当通所介護での「食支援」を紹介します。2009年より開始した嚥下往診は、耳鼻咽喉科医師、摂食・嚥下障害看護認定看護師、作業療法士(以下、OT)の3職種にて実施しています。そのほか、適時理学療法士・言語聴覚士・管理栄養士が介入するなど、多職種が協働しながら専門的なチームアプローチをおこなうのが特色です。利用者の摂食環境において嚥下内視鏡検査を実施し、画像評価のほか、食材の決定・姿勢調整・介助方法・調理方法・リスク管理の指導などをおこないます。通所介護では看護師とOTが嚥下機能評価をもとに食事のレベルを決定します。そしてOTが食具の選定や姿勢調整をおこない、看護師が食形態の決定をおこないます。食事介助が必要な利用者にはOTや看護師から介護職員に対して、効果的な介助方法を指導します。食事は「嚥下食バイキング」で提供しており、個人の状態に適した形態の食事を、好きな分量だけ取り分けてもらっています。摂食嚥下機能評価(医学的視点)に基づき、その方にとって、最適な食形態を選び、食具や自具、姿勢調整用のクッションなど、安楽・安全に食べられる環境を提供することを大切に、食べることを楽しみと感じていただける“食支援”を実践しております。地域では「食べることができるのに食べていない」と「食べることができないのに食べている」といった状況におかれている方と出会うことが多いことや、一人の専門職が他の専門領域までオーバーラップして支援する機会がよくあります。各専門職が他の専門領域の問題にも気づくことができることや包括的な支援の構築が重要であると考えています。最後に私がOTとして食支援に携わるなかで、嚥下機能や食事動作に直接的に関与する姿勢調整(ポジショニング)と呼吸ケア(喀痰)についての私見もお話ししたいと思います。

～ 略歴～

寺本 千秋(てらもと かずあき)

- ◆高知リハビリテーション学院 作業療法学科(作業療法士免許取得)/佛教大学 社会学部 社会福祉学科(社会学士)
- ◆H10～ 社会福祉法人 琴の浦リハビリテーションセンターH15～有田市立病院 リハビリテーション科・訪問リハビリ事業所(開設)、H21～現職(株式会社紀州ライフコーディネートサービスを設立)
- ◆和歌山県作業療法士会(副会長)、大阪府和泉保健所(難病患者巡回指導員)、NPO法人和歌山県口腔ケア&摂食・嚥下研究会(理事)、和歌山市高齢者福祉・介護保険事業計画策定委員(非常勤講師)藍野大学医療保健学部、和歌山YMCA福祉専門学校、高知リハビリテーション学院 等
- ◆〈編集〉『臨床作業療法』前もって知ろう！訪問リハのアクセシブルなリスクの対処策、Vol.12.NO3, 青海社 2015 / 〈共著〉口から食べる幸せをサポートする包括的スキルーKT バランスチャートの活用と支援ー第3章食事動作 P52-55,医学書院.2015(小山珠美編集) / 『臨床作業療法』作業療法士が創る摂食嚥下障害に対するリハアプローチ 連載7回コラム,Vol.12.NO1-6,Vol.13. NO1,青海社.2015

## 食を支える包括的支援チーム

## ～口から食べる幸せを再び手に入れた症例(チキンカツへの道のり)～

J A 神奈川県厚生連 介護老人保健施設 ほほえみの丘  
管理栄養士 中村 葉



## 【目的】

摂食嚥下機能低下により、口から食べることを制限されている人々が多く存在している現実がある。今回は経管栄養を主体としていた当施設入所者に、適切なケアとリハビリテーションを行った結果、再び口から食べる幸せを得られた1症例を報告する。

【症例】80歳代 男性

【診断名】脳梗塞・重度嚥下障害・構音障害

## 【現病歴】

平成27年4月脳梗塞と診断され入院。重度嚥下困難のため、食事摂取量が少なく低栄養状態となり、経鼻経管栄養が開始となる。平成27年6月に転院し、摂食嚥下機能の回復が見込めないため、胃ろう造設となった。胃ろう造設後も、言語聴覚士による嚥下訓練は行われており、プロッカゼリーやムース粥を1日1回経口摂取していた。退院時のADLでは自宅での介護が困難であるため、リハビリテーションの目的で平成27年9月に当施設へ入所された。

## 【経過】

入所後は、看護師が中心となり、プロッカゼリーを用いて1日1回の嚥下訓練を開始した。また、理学療法士や作業療法士による身体的機能訓練を行ったことでADLの向上をみとめた。その後平成27年10月からは、ゼリー食とミキサー粥の提供に切り替えた。しかし、痰がらみやむせ込みの出現で嚥下訓練を途中で中止することが続いたため、平成27年12月摂食嚥下機能評価を受けた。評価後、アドバイスを受けて、摂取時の姿勢、スプーンの選定、介助方法、環境整備等を改善したところ、誤嚥様症状の出現が減り食事摂取量が増えた。その後は、食事形態も軟菜食と全粥へ変わり、食事回数も増え、好きなものは常食形態での摂取が可能となった。そして先日、念願だった大好物のチキンカツを食べることができると回復した。

## 【考察】

本症例は、対象者の「食べたい」という強い意思、家族の希望、当施設スタッフによる段階的で包括的なケアやリハビリテーションの展開が効果的に行われたからではないかと考える。

## 【結語】

「食べたい」と願う入所者に、「美味しい」「幸せ」を届けるため、我々医療・介護従事者は最善最適な技術を提供できるよう、日々スキルアップを図ることが重要である。

～ 略歴～

中村 葉(なかむら よう)

2001年 管理栄養士免許取得

急性期病院勤務を経て2014年4月より現職特別養護老人ホーム勤務

## 謝 辞

本大会の開催にあたり、下記の皆様にご協力いただきました。ここに感謝の意を表します。

大会長 小山 珠美

### 【共催】

- ・株式会社クリニコ    ・日清オイリオグループ株式会社
- ・ラックヘルスケア株式会社    ・渡辺商事株式会社

### 【企業出展一覧】

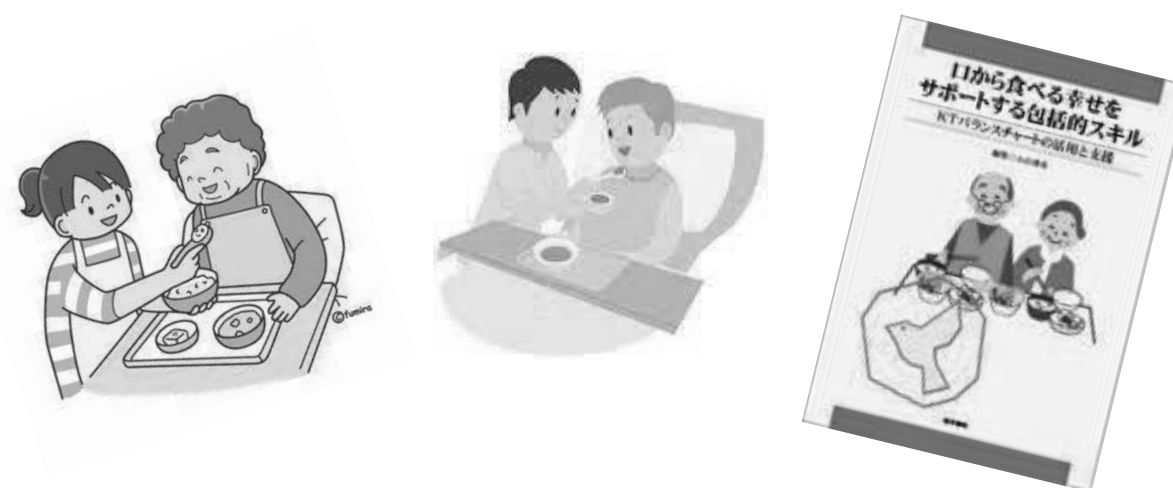
- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 伊那食品工業株式会社東京支店  | 株式会社明治         |
| 株式会社大塚製薬工場      | キッセイ薬品工業株式会社   |
| 株式会社オーラルケア      | キューピー株式会社      |
| 株式会社クリニコ        | 日清オイリオグループ株式会社 |
| 株式会社タカキヘルスケアフーズ | ニプロ株式会社        |
| 株式会社天柳          | ニュートリー株式会社     |
| 株式会社東京技研        | バランス株式会社       |
| 株式会社トライフ        | ラックヘルスケア株式会社   |
| 株式会社ニシウラ        | 渡辺商事株式会社       |
| 株式会社フードケア       | ワタミ株式会社        |
| 株式会社ヘルシーネットワーク  |                |

(50音順)

## 2016年度 KTSM 実技セミナー開催一覧

\* 最新情報はホームページをご確認ください。

回数	日時	開催場所	コース	募集人数
27回	4月24日(日)	秋田県湯沢市	基礎&スキルアップ	40
28回	4月29日(金)	宮城県気仙沼市	基礎&スキルアップ	40
29回	5月7日(土)	北海道函館市	基礎	30
30回	5月21日(土)	宮城県古川市	基礎	30
31回	7月23日(土)	宮崎市	基礎	60
32回	8月7日(日)	秋田由利本荘市	基礎	60
33回	8月20日(土)	神戸市	基礎	45
34回	8月28日(日)	東京	基礎&スキルアップ	30
35回	9月18日(日)	山梨市	基礎&スキルアップ	未定
36回	9月22日(木)	新潟市	基礎&スキルアップ	未定
37回	10月8日(土)	宮城県栗原市	基礎&スキルアップ	未定
38回	10月30日(日)	大分県別府市	基礎	30
39回	11月5日(土)	熊本市	基礎&スキルアップ	50
40回	11月12日(土)	神戸市協立	基礎	未定
41回	11月27日(日)	青森県八戸市	基礎	未定
42回	12月24日(土)	秋田市	基礎&スキルアップ	未定
43回	2017年 1月15日(日)	東京	基礎&スキルアップ	30
44回	1月28日(土)	沖縄市	基礎&スキルアップ	未定
45回	3月25日(土)	東京	基礎&スキルアップ	30



食べる幸せを守るための

2016  
9/10  
土

10:00～16:00  
会場/兵庫医科大学

# 摂食 嚥下 アプローチ

講師



**小山 珠美**  
JA神奈川県厚生連  
伊勢原協同病院 看護師  
NPO法人  
口から食べる幸せを守る会 理事長



**岸本 裕充**  
兵庫医科大学病院  
歯科口腔外科学講座 主任教授



**福岡 達之**  
広島国際大学総合  
リハビリテーション学部  
言語聴覚療法学専攻 准教授

プログラム概要

- 口から食べるために知っておきたい基本知識
- 食べられる口をCREATEするためのオーラルマネジメント  
～口腔ケアだけで終わっていませんか?
- 口から食べる幸せをサポートするための包括的支援スキル  
～KT(kutikaraTaberu)バランスチャートの開発と成果
- 安全・安楽・自立を意図した食事介助スキル

口から食べる幸せを支援したい、そのために必要な摂食嚥下の基本知識、口腔ケア、食事介助技術が学べるセミナーです。「NHKプロフェッショナル 仕事の流儀」にも出演された小山珠美先生には、開発されたKT/バランスチャートや安全でセルフケア能力を高める食事介助方法についてご講演していただきます。食事介助技術のコツは、相互実習を通して小山先生の直接指導が受けられますので、この機会にぜひご参加ください。

お申し込み方法

CRASEED ホームページのセミナー申込専用フォームよりお申し込みください。

<http://craseed.org>

CRASEED 検索



受講料

12,000円 ※CRASEED 正会員は 20% 引き  
CRASEED 賛助会員の施設職員は 10% 引き

主催/兵庫医科大学リハビリテーション医学教室  
共催/ NPO法人リハビリテーション医療推進機構 CRASEED  
一般社団法人 CRASEED MEDICAL  
問合せ先/兵庫医科大学リハビリテーション医学教室  
TEL:0798-45-6881 E-mail: office@craseed.org

出版物のご案内

# 在宅介護の 食に困ったら読む本

在宅介護の食に関する  
待望のムックがここに登場!

～元気と幸せのために何をどう食べるか～



B5判 100ページ  
カラー 84 ページ  
+モノクロ 16 ページ

B.B.MOOK1324

7月21日  
全国主要書店にて発売!

定価  
(本体 1,250円+税)

スペシャル対談

「口から食べる」のすすめ

岡田晋吾先生 × 小山珠美先生

私の介護奮戦記

誌上2大プレゼント!

- 田原総一朗さん
- 島田洋七さん
- 城戸真亜子さん

介護食レシピコンテスト  
介護食いきいきアンケート

「嚥む・飲み込むの基礎知識」  
藤本篤士先生

「低栄養に気をつけよう」  
中村育子先生

「在宅介護 こころの料理」  
工藤美香先生

ほか、お役に立つコンテンツ満載!

この出版物の  
お求めは  
ベースボール・マガジン社  
〒103-8482  
東京都中央区日本橋浜町 2-61-9 TIE 浜町ビル

お近くに書店がない場合、上記発売日より当社ホームページからご購入いただけます。  
<https://bookcart.sportsclick.jp/>  
電話でのご注文は、ベースボール・マガジン社 受注センターにて受け付けております。  
☎0120-911-410 (月～金 10～12時、13～16時) ※祝日を除く





熊本復興を応援しよう！

発行日：2016年7月2日

第4回NPO法人口から食べる幸せを守る会 全国大会 in 横浜 プログラム・抄録集

発行責任者：NPO 法人口から食べる幸せを守る会®

※本誌の無断コピーや使用については著作権の関係上、固くお断りいたします